



TITLE:

告知版 BLLDの文献複写サービスについて

AUTHOR(S):

CITATION:

告知版 BLLDの文献複写サービスについて. 静脩 1977, 14(2): 5-6

ISSUE DATE:

1977-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36772>

RIGHT:



なく、研究に支障を来たすことは明らかである。

そのため積極的な顕在的利用者の要求はもち論、潜在的利用者の要求がどこにあるのかを含め、これらの要求に対処しうる図書館を求めて、昭和39年図書委員会が設けられると同時に、図書館資料を充実することと併行して、分散している雑誌を中央図書室に集中することが検討されてきた。昭和50年に中央図書室が現在の場所に移転されたのを契機に、この基本線に沿って資料の集中化が軌道にのりはじめ、現在に至っている。

3. 図書館資料の集中による図書館活動

参考業務は図書館活動の1つとして従来から行ってきたが、資料不足、二次資料の未整備等のため、担当者の熱意にもかかわらず必ずしも十分要求に応じられていなかった。しかし、図書館資料の集中化に伴い専門分野の中心的な雑誌や周辺領域の雑誌、資料が中央図書室に集中され、また不備であった二次資料も順次整備されてきた。

この集中による資料の充実によって、研究図書

館としての参考業務、整理業務も質的な転換を迎えようとしている。たとえばその1例として参考業務の内容と依頼件数をみると、所在調査が従来参考業務の大半を占めていたのに対して、二次資料の整備が進むにつれて事項調査が増加し、国内外の必要情報を提供することが可能になった。これを数字でみると、件数は昭和49年では約1,900件であったのに対して、昭和51年では倍近い約3,700件となり、今後増加することが予想される。

また依頼者は学部教官、学部学生、大学院生が大半を占めているのが当然であるが、これに加えて他学部、他大学、機関の研究者からの調査依頼が含まれ、これもまた年々増加の傾向にある。

参考業務の件数の増加と共に、複写による資料の取り寄せの要求があり、国内資料はもち論、BLLDやNAL (National Agricultural Library) 等国外の機関よりの資料の取り寄せを行っている。

資料の集中化によって整理業務においても内容の転換を進めつつある。資料の集中は利用者の増加を捉し、要求内容は多様化している。そのためこれに応ずるには資料の充実を計る必要がある。一般的に閲覧と整理は切り離して論ずることができないのであるが、中央図書室としての必要資料は独り整理で選定されるのではなく、利用者の要求をきく閲覧との密接な関係があってはじめて適切な蔵書構成ができるのである。このため整理では閲覧を通じた利用者の必要資料をできるだけ整備するようにしている。

農学部図書掛長 辻 武夫

告 知 板

BLLD の文献複写サービスについて

BLLD というのは、英国国立図書館 (British Library) 貸出部門 (Lending Division) のことであり、世界の学術雑誌を網羅的に収書して国内、

国外の図書館等に対して、幅広いサービス活動を展開しています。

BLLD は世界各国から47,500タイトルの出版物

を受取っており、逐次刊行物の所蔵総数は12万タイトル。更に参考部門 (Reference Division) が所有する20万タイトルの逐次刊行物と、英国内の主要図書館のコレクションが利用できます。なお蔵書400万のうち、150万の研究レポート、約7万の国際会議の議事録、各国政府、国際機関刊行物のコレクションがあります。

このたび文部省と BLLD 及びブリティッシュ・カウンシルが協議の結果、クーポン券による**文献複写サービス**を受けることができるようになりました。クーポン券は附属図書館の経理掛が四半期毎に、部局からの希望に応じて購入し、配布します。

複写の申込みは、それぞれ所属の部局図書室でできますが、現在のところ校費に限られています。

代金は、クーポン券1冊(20枚綴り)が16,500円で、1枚で複写できるものは下記のとおりです。

- a) ゼロックスコピー 10ページまで
- b) 引伸したマイクロフィッシュ 10ページまで
- c) 35 mm マイクロフィルム 20ページまで
- d) マイクロフィッシュに撮ったレポート1点

所要日数は、早ければ日英間の往復日数2週間を含めて16日ぐらいで送られてきます。その際の郵便料金はクーポンの代金に含まれています。ぜひご利用下さい。

大学図書館界の動き

国立大学附属図書館の整備充実に関する要望書について

去る6月2・3日開催された第24回国立大学図書館協議会総会において決議された文部大臣への要望事項については、その後常務理事会で下記のようにとりまとめられ、国立大学図書館協議会会長から、文部大臣はじめ大蔵省、行政管理庁事務次官ならびに人事院総裁に提出された。

記

図書館の整備充実は、大学における教育研究体制の維持発展にとって不可欠のものであります。国立大学附属図書館は、関係省庁のご配慮によって着々と改善の道を歩んで参りました。大学みずからも個々の大学における努力と本協議会の活動等を通じる協力によっていっそうの改善のための策を講じておりますが、国立大学図書館は関係各方面のご理解、ご支援によってさらに飛躍的な整備充実が推進されなければならない現状にあります。とくに図書館は図書・資料その他の情報量の増大、図書館に対する新たな機能についての要求に対応しなければならず、また日本の国立大学図書館の現状は国際的に比較した場合も所蔵図書資

料・人員・施設・機能いずれの点におきましても、きわめて不十分といわざるをえませんので、これらの問題の解決についての早急な措置が必要な状態にあります。

さしあたり、国立大学図書館の整備充実について関係省庁に早急な措置を要請すべき点を掲記すると以下のとおりであります。

1. 図書館予算について

- (1) 「学生用図書購入費」をさらに増額すること
- (2) 「特別図書購入費」をさらに増額すること
- (3) 「外国雑誌購入費」をさらに増額すること
- (4) 「参考図書購入費」をさらに増額すること
- (5) 「共同利用図書購入費」を新設すること
- (6) 「図書館維持費」を増額すること
- (7) 夜間開館・休日開館に必要な経費を増額すること
- (8) 図書館職員の研修旅費を増額すること
- (9) 冷房設備を設置し、その維持費を予算化すること

2. 図書館職員について

- (1) 図書館職員の大幅増員をはかること
 - ㊦ 学生増および学部・学科、研究所等の新増設が行われる場合には学生・教官の増加に対して一定比率をもって図書館職員の定員を増員するように措置すること
 - ㊧ 参考業務担当職員の増員をさらに推進すること